

【トラック 2】

(ゆき声の向き：右 距離：普通)

(りお声の向き：左 距離：普通)

りお

「せーんせっ、ふふ、二人っきりだね♪

もとい、あたし達だけだね？

ほーら、先生、もっとりおの隣に来て？

それでー、もっとベタベタしながら勉強教えてよー、

(距離：近づきながら)ねえいいでしょー？ んぎゅーっ」

ゆき

「せーんせ、りおばかり鼻肩するのは駄目ですよ？

だからこっちにもくっついてください、

あ、むしろ、私が寄りましょうか？

ふふこうやって♪ (距離：近く)ぎゅー。」

(左 距離：近く)

りお

「もー、テーブル狭いんだから、そんなにしたら勉強できないじゃん！」

ゆき (右 距離：近く)

「そんなのりおのせいでしょー。…あ、てより」

りお「うん、んふふ」

りおゆき左右から

「先生どうしたんですかー？ なんか、顔赤いですけど～？」

りお

「りお、もしかしてと思うんだけどお、  
教え子の（強調）おっぱい…  
腕にあたっちゃって興奮しちゃった……？  
ふふっ、なんかはあはあしてるー、  
せんせえ、前から思ってたんですけどお、  
せんせえはあ、ひょっとして、ど・う・て・い、なのかなあ～？」

ゆき「先生、童貞なんですか？

ふふ、その顔は、凶星って感じですね。  
んー、私は別に童貞がどうか思いませんが、  
でも、童貞で胸に興味があるならあ、  
わたしのほうがあ……おっぱいでっかいですよ？  
とかいってみたいしてえ♪」

ゆき

「ふふ、生唾飲んでます♪」

りお

「先生、もう我慢できないんですね♪」

ゆきりお左右から

「じゃあ、先生……私たちのおっぱい、たーぷり味わっちゃってね」

りお

「ん？ 何？ …えええ！？ そ、そんなことよりも勉強！？！？  
な、なんでそーなるの！？  
いやいや違うってばあ、私たちは勉強したくない口実とかじゃなくってえ！  
ねえ、ゆき？」

ゆき

「ふふふ、まあ仕方ありませんね。先生も、きっと心の準備が必要なんでしょう。  
ですよ？ ふふふ。  
というわけで、りお、とりあえず勉強に集中しましょう。お楽しみはその後、です♪」

りお「ええー…もう、仕方がないなあ～」

(3人勉強を始める・・・SE 時計の音)

(左 距離：普通)

りお

「ねー先生ー！ この問題なんだけどさー。  
あ、なるほど！ そうすればいいんだね、  
先生の教え方わかりやすーい。  
ふふ、お礼のは・ぐ、してあげるね。  
……先生、あ・り・が・と (左 距離：近く)ぎゅー♪」

ゆき

「はあ、りお、ぎゅーはしなくていいでしょ。」

(左 距離：近く)

りお

「えー、でも、先生もJKにハグされたほうがきっと嬉しいよー。  
それに言葉より態度で示さないって言葉もあるくらいだしー」

ゆき

「いいから真面目に集中！ 今は勉強って言ったでしょ！」

りお

「はあーい。勉強しまーす、  
…て、うん、大丈夫かな？ これなら。  
あ、何がっていうとね。えーと」

りお

「(囁き) ね、ね、先生、こっちこっち。 耳貸して？  
あのさ。さっき、私たちの胸に興味津々だったでしょ？  
ふふふ、そんな顔してもむーだ、あたしわかってるんだから」

りお

「だからさ、さわって、いーよ……？  
ほんとほんと。JKのおっぱい触りたくない？  
ふふ、ごくんって生唾のんだ～、せーんせ、やらしーんだ～っ」

りお

「じゃあね、こっそりテーブルの下からね？

ゆきにバレたら五月蠅いし、だから、こっそり指先でつんつんってする感じで。  
ん…そうそう、そーいー感じ」

りお

「ふふ、先生りおのおっぱいどお？ そこまで大きくはないけど～、  
ちゃんとお指にい、胸の感触するでしょ～？…あ…ッ

あはっ、おっぱいに指食い込むよお。あっ、

だんだん大胆になってきてる～、あん♡

んふふ、先生、じょ・う・ず・だ・よ♪      じょ・う・ず♪

なーんちゃってー、…って、あ、やばっ」

ゆき

「り～お～。何してるんですか～

やばっ、じゃないでしょう、バレないとでも思ってたんですか？

はあ、やれやれ……

でもお、りおのおっぱいにも興味があったってことは、

私のにもあるってことですよね？

ふふ、つーまーりー、こーです♪

ほら、手をとってえ、ぎゅーです♪」

ゆき

「んっ、はあ、ふふ、どうですかあ？ 私のおっぱい♪

りおより大きくてえ、むぎゅむぎゅしたらすーごい感触が伝わるでしょー？」

ゆき

「どうです？ ふふ、そうですか、弾力があって、すっごく気持ちいいですか～？」

ゆき

「ふふ、先生、鼻のしたのびてますよ、どーてい(強調)には刺激、強かったですかね？  
息もお、さっき二人で誘惑した時くらいにい、荒いですよ♪」

はい、なんですか？ …勉強？ ふふ、いーんですか、勉強に戻っても。

だって先生のお、さっきからずーと勃起しっぱなしじゃないですかあ。もっともっ  
と教え子のおっぱい、欲しいんじゃないですかあ？ ううん、それ以上だって、ね  
え、先生？」

りお

「ふふ、そうだよ、せーんせ、素直になろうよー。  
勉強も、体裁も、年の差も…ぜーんぶ忘れちゃお？  
それでえ、童貞さんだからがつつきたいですって素直になっちゃお？  
なってえ、りおのおっぱいも、もっともーと触っちゃお？  
ね、先生、ほら、手を伸ばして……？  
もっともっとやらしーく揉んでいいんだよ……？」

りお

「うん、そうそう、先生上手上手、ふふふ♪」

ゆき

「ああっもうっ、先生っ、りおばかり！  
駄目ですずるいです、だからほら、こっちもちゃんと触って下さいっ。  
ん、はあ、そうです。私のおっぱいの弾力もっとちゃんと感じて下さい、  
はあ、はあ、そうやって、ゆきのJKおっぱい触ってもっと興奮して下さいい♪  
はあ♪」

りお

「ん、はあ、だあめ、りおのも離したらだあめ♪  
ふふ、JK二人、揉み比べ興奮しちゃう？  
だったらもっとがつついちゃっていいんだよ？  
ほらほら、おいで？ ってきゃんっ。  
わー、わしづかみい♪ ふふ、すっごいがつついてもみもみしちゃってるう♪」

ゆき

「先生もみもみ気持ちいいですかあ？ じゃあ、もっといっぱいもみもみできるよーに、私たちがサービスしてあげちゃいますね♪」

//りお、ゆき、左右から耳元で囁き

りおゆき（囁き）

「もみもみ…もみもみ…（少しずつ息を荒くして）  
んっ、ああ、はあ、もみもみ、ん、もみもみ、  
ん、ああ、はあ、もみもみ、もみもみ、もみもみ、もみもみ、はあ♪」

ゆき

「ふふっ、先生…私たちにあわせてえ、  
しっかり手、動かしちゃってるう。あん、ああ、こんなの感じちやいそ……♪」

りお

「ふふ、先生、りおたちの胸そんなに良かったんだあ♪  
だって、先生てばちゃっかり揉むスピード早くなってるしい。  
ああ、ああ、はあ、ああ、だめえ、こんなの感じちゃうよお♪  
先生上手上手♪」

ゆきりお

「先生上手上手♪」

りお

「ああ、りおも気持ち良くなっちゃう、  
で、先生、どっちのおっぱいが気持ちいい？ やっぱりりおのほうだよね？」

ゆき

「んっ、ああ、先生、そんなことないですよ、ああ、私の方ですよ？  
ほーら、この手でもっともみもみして、私のほうを選んじゃいましょうよ、ね？」

(左 距離：普通)

りお

「ってええー？ 先生、この期に及んで勉強ー！？  
ああ、もう、先生てば頭固いんだから～～…  
ここはこーんなになってるのにい？」

ゆき

「そーですよ、先生、身体はさっきから正直に反応し続けてますよ、  
ここは、正直になるところでは？」

りお

「はあ、それより定期テストが気になると？  
ふふ、じゃー気がかりから先に払拭してあげるね！  
じゃーん！ ほらどーお、こないだのテスト結果！  
うん、もうとっくに終わってたんだよね。  
で、どう？ ほぼ満点でしょー！」

ゆき

「ふふっ、りおと同じく私もほぼ満点でした。確かクラスでトップでしたね。  
ほんと何から何まで先生のおかげです、ありがとうございました♪  
で、つきましては言い忘れてたんですけど……  
その、なんていうか日頃の感謝を先生にしたいなと思ひまして」

りお

「つーまーりー、今日は先生にお礼する日だって決めてたの！  
だから、いーぱい誘惑しちゃってたんだよね」

ゆき

「はい、そういうことだったんです。  
それに、もうすぐ先生が家庭教師としてうちに来てくれて1年になりますよね。  
だから、そういう意味も込めて、私たちからプレゼントってことだったんです。  
それでは改めまして。日頃の感謝を込めて、私たちからのプレゼントです。  
受け取ってくださいませよね、私たちからの」

りおゆき 左右から同時に囁き

「エッチなプ・レ・ゼ・ン・ト♪」

りお

「てなわけでも引き続き～♪ んしょっ」

(左 距離：近く)

りお

「(囁き) んふ～、またこの体勢になっちゃった♪  
ところで先生ってえ、やっぱり童貞なんでしょう？  
ふふ、隠さなくてももうバレバレだよお♪  
前からそれっぽかったもんねえ。  
だからりおたちが…先生にエッチなこと教えてあげよーと思ってえ♡  
えー、駄目なの～？ 先生ってば強情だなあ。  
でも、それこそ駄目だよ～。  
だって、さっき、良い感じにりおたちのおっぱい触って  
先生、すごくムラムラしてきてるでしょー？  
その証拠に、こ・こ。もうまじでガチガチって感じに勃起させちゃってるしさー♪  
こんだけ勃起しちゃってたら、もう出したくて出したくて、たまらないでしょ？  
エッチなことだけしたくてたまらないでしょ～？  
だからあ、もっと色々しちゃお？  
ほらほらあ、いいんだよお、今度は服の上からじゃなくてさ、  
直接おっぱい触ってみても…♪  
ふふ、じゃありお服脱いであげちゃうね、よいしょっと♪」

ゆき

「ふふっ、りおったらあ、破廉恥です♪  
だけどそういうことなら、私だって脱いじゃいますから♪  
よっと♪ ふう。  
ふふっ、先生、食い入るように見てます♪  
そんなに私の身体みたかったんですかあ？  
だってえ、視線もそうだけど、股間も、ビク、ビクってしちゃってますしい♪  
はあ、先生、とってもエッチ、です♪」

ゆき

「ふふ、下着がピンクでとっても可愛いんですね、嬉しいです。  
でもお、下着が可愛いのは今日だけじゃなかったんですよ？  
先生が来る日は、いつも可愛い下着を着けてたんです♪  
ふふ、どーいう意味でしょう♪  
ふふふ、先生の思ったとおり、かも知れませんね。  
それより先生、お願いがあるんですけどお、  
ブラのホック、外してくれませんか？  
これ、フロントホックなんで、前から外せちゃいますよ」



(りお 左 距離：普通)

りお

「ふふっ、先生ドギマギしてるー、そんなのでうまくブラ外せるのかなぁ？  
先生脱がせたことないでしょー、  
それにい、私のほうもホック外して欲しいな。  
うん、先生におっぱい、みせてあげたいのー♪  
あはっ、すごいきょどってる～。  
ふふっ、大丈夫だよ、先生のそーいうところも大好きだ・か・ら♪ ふふっ。  
あ、そうだ、こーなったらさー、りおとゆき、同時にブラのホック外してよー。  
大丈夫、外し方は私たちが手取り足取り教えてあげるから、ね。  
もちろん外し方だけじゃないよ？その先も……ね。だからいいでしょ、先生。」

りおゆき

「私たちのブラを～」

りお「ぬ・が・せ・て♪」

ゆき「ぬ・が・せ・て・く・だ・さ・い♪」

りお「ほらはやくー」

ゆき「先生、そこがホックですから、こ一指でくいとすれば外れますから」

りお「緊張しないでいいからね」

ゆき「ふふ、ほら、は・や・く♪」

りお「ん、ふふ」

ゆき「んふふ」

りおゆき

「ぴんっ」

りお「あーあ、外しちゃった」

ゆき「あーあ、外しちゃいましたね」

りお「教え子のー」

ゆき「ブラ、外しちゃいましたね」

りお「ふふ、先生にみられちゃったー」

ゆき「先生にみられちゃいました♪」

ゆき「ふふ、どーですか先生、って、あんっ」

りお

「あっ、ん、ああっ、先生♪ もうすごい♪  
いきなりがっついてきてえ、おっぱいもみもみしてる～」

ゆき

「ふふ、JKのおっぱいがそんなに揉みたかったんですね～。  
ふふ、普段は興味ない顔してましたが、  
実はずーと興味あったの私たち知ってるんですよ？」

りお

「そーだよー、だってえ、チラチラってたまーに胸みてきてたい。  
それにー、制服の時とかはあ、更にい、色々みてきてたい」

ゆき

「隠さないでいいんですよ？  
ジョシコーセーの制服姿に、こーふん、しちゃってたんですよ？  
じゃあ心ゆくまま私たちの身体を味わって……って、は、はい？」

りお

「え？  
はあ、家庭教師として来てるんだから勉強しないわけにはいかない…？  
あーん…先生頭固すぎい…！」

ゆき

「もう、先生ってばあ。

まあ、いきなり可愛い教え子にゆーわくされて

悩殺されかかってててんばってるってのがほんとなんでしょけど♪

まあ、いいですよ、それなら勉強しましょうか。

だ・け・ど、単なる勉強じゃないですよ♪ ね、りお？」

りお

「そうだよ、ここまで来たらただの勉強なんかできないよね。

だから、うーん、そうだ！

私たちのおっぱい交互に揉みながら勉強するってのはどお？」

ゆき

「もちろん、私はさんせーです♪」

りお

「ふふ、じゃあ先生さっそくはじめちゃお♪

ほらあ…せんせ、ここにい…手をおいて。

ん…っそうそう、そのまま、もみもみって…

ん…ふ…

さっきのテスト…？ え、これ？

ここの間違い…？ んん…っ

こ、これは、ここが…こうなる前…につ、

先にここ…をかけて…あつ、

計算する…んん…こ、ここをおつ、だ、代入…し…てえええ♡んん」

ゆき

「えっと…ゆ、ゆきはここ…間違え…て、

どうしたら…解けるんですかあ…？ はあ…はあ…

うん…はあ、ああ、ここは、前の問題から…あつ、記号をとってて…あん…

こ、こうですか…？ はあはあ…わかりましたああ…」

りお「せんせ…これで合ってる？

あつ、ち、ちくび、クリクリしてえ…

先生、いいよ。その調子だよ♪

ひゃあ…ペンで下乳持ち上げないでえ、ああんっ

それは、だめえ…っはあはあ。先生やりすぎい♪」

ゆき

「先生…ゆき、ここがわからなくてえ…  
はあはあ、この問…題、何回解いてもお…はあ、  
答えどおりにならない…っ、んですうっ。  
はあああ、ペンで乳首つついちゃいやあ…  
もう、こんなんでも勉強…なんて、できるわけないですう…♪」

りお

「ん…ふう…ん…あ…ああ…っ、  
おっぱいをペンで持ち上げられて…  
上下に…ゆさゆさしてるう…っあん…っあっ…あっ…  
あ…はんっ…ぽいんぽいんって揺らしてるう…  
ああ…はあ…はあ…ああん…  
ぽいんぽいんってえ…だめええ」

ゆき

「あああんっ、乳首、食い込んでるうう、  
ペンがおっぱいにうまっちゃってますうっ。  
これダメ…あああっあっ、あん…」

りお

「んっ、ああ、んっ、ふふふ、先生もお、  
勉強勉強っていってても、全然勉強、してないよね♪」

ゆき

「はあはあ、先生、もうケダモノです♪  
もうエッチなことしたくてやっぱりたまらないんですね♪  
ふふ、じゃあ、今度こそ勉強はここまでですよ」

(正面 距離：近く)

りお「うん、りおもこーふんしちゃってもう駄目だからあ。  
はあはあ、先生我慢できないよお、もう駄目え。  
だから、先生、いっぱいキスしよ、キス、ちゅっ(キス)  
こんなんじゃだめえ、もっともっといっぱいキスう♪  
ん…ちゅ…ちゅう…ちゅぱ…んん…ん…あ…ん…ちゅぱ…ちゅる…  
んちゅ…れろれろ…ちゅるる…んん…ちゅううっ…ぷはあ」

ゆき

「はぁはぁありおばかりずるいですう。  
私も、すっかり…興奮しちゃいましたぁ  
私とも…キスしてくださいい♪  
ん…ちゅ…ちゅう…ちゅば…んん…ん…  
キスしちゃいましたね♡  
これで既成事実はできましたから、逃げてても無駄ですよ？先生？  
(キス 30 秒) …はぁはぁ  
ふふ、いつもと立場が逆ですね、  
先生、今度は私たちのエッチなお勉強の始まりですよ。  
今日は私たちがたーぷりご指導、してあげます♪  
じゃあ、両脇を、私たちが固めて、こっちは私が、んしょ♪」

りお

「こっちはりおが♪」

(左 距離：近く)

りお

「(囁き)ふふ、近づかれたら立っちゃう？ そんなの今更だよ～♪  
さっきからずーとおちんぽはガチガチにそそり立ってるじゃーん。  
もうテント張っちゃって、おちんちんの形外からでも丸わかりになっちゃってるよ？  
んー？ JKの良い匂いがして～？  
ふふ、かわいー、  
私たちの匂いでクラクラして、おちんぽびくっとさせちゃったんだ～♪  
あんまりにも可愛いからー、  
このままテントはったペニス、指先でなぞっちゃお～  
下から上へゆっくり～、つ～♡」

ゆき「ふふ…っ、じゃあ私は、おちんちんをなでなでしてあげますね。

ほらなでなで♪

ふふっ、おちんちんをなでなでしたらビクビク動いて…  
先生ったらとっても元気です♪

よしよし。いい子ですね、先生♪

じゃあ私もお、上から下へゆっくり～、つー♡んふふふ♪

もうすごーい敏感で、ビンビンでえ、もう苦しくてたまらないっていつてます♪  
だからぁ、もうズボン脱がしちゃいますね……♪」

//SE かちゃかちゃスポンを降ろす

りお

「先生のおちんちん、こんななんだ～、  
やだー、大きいけど先生のだと思うとなんだかかわいーい♡ それっ、つんつーん♡」

ゆき

「こらこら、可愛いなんていったら先生がへこんじゃうでしょ。  
ここは格好いいって褒めてあげなくちゃ。  
先生、とってもガチガチでそそり立ってて、凶悪でかっこいいですよ♪  
ふふ、ほんとです♪  
じゃあ、私も優しく優しく触っていきますね、二人一緒につんつんしちゃいます♪  
ほら、つんつん」

(左 距離：普通)

りおゆき

「つんつん…♡つんつん…♡つんつん…♡」

りお

「ふふっ、もっともっと大きくなって来ちゃったよ？  
息もさっきよりも、すっごくはあはあしちゃってるし、  
おちんちんもビクビク跳ねてえ、凄いことになっちゃってるよ～？  
敏感になってきたんだね～♪  
じゃあこの状態でえ、こうやってえ…おちんぼぎゅって握ったらどうなるかな～？  
ふふ、びくんってしたよ？ 手冷たかった？ それとも気持ち良かった？」

ゆき

「あ、ずるい♪ 私もお…先生のおちんちん、握ります。ぎゅっ♪  
握ってえ、にぎにぎってしてえ、ほら、先生みて下さい、先生のおちんちん、JK  
にしっかりと包み込まれてますよ？」

りお「ふふ、握ってるだけでビクビクしてる～♪ 先生敏感だ～♪

で・も。握るだけじゃないからね、そーだよー、ここから動かしちゃうんだよ～？  
今でもびくびくしてるのにい、動かしたらどうなるかなー？」

ゆき

「ふっ、じゃあ、教え子手コキ、いきますよー…  
しーこー、しーこー、しーこー、しーこー。」

りお

「しーこー、しーこー、しーこー、しーこー。  
やばーい、先生のおちんぽ、むくうって大きくなったあ、やーらしー」

ゆき

「先生、震えてますよ？大丈夫ですか？  
しーこーしーこー、しーこーしーこー、」

ゆきりお

「しーこーしーこお、しーこーしーこお、  
はあ…はあ…しこしこ…しこしこ…しこしこ…しこしこ…はあはあ」

りお

「ねね、ゆき見てみて。  
せんせーのおちんぽの先っぽから透明な汁出てきてる～。  
先生、これ何～？」

ゆき

「これはあ、我・慢・汁って言うんですよ  
おちんちん、気持ち良くて気持ち良くて仕方がない～～って泣いているんですよね」

りお

「年下からこーんな風にかかわれて気持ちよくなってんの～？  
先生てばへんたーい。  
変態口リコン教師♡」

ゆき

「その調子ですよ♡どんどんお汁出してくださいね  
先生の透明なお汁…いい香りがします。  
くんくん。(匂いを嗅ぐ音) くんくん…はあ、ステキな香り」

(正面 距離：普通)

りお

「りおも匂いかぐ～（匂いを嗅ぐ音）

くんくん…くんくん。わ～先生のおちんぽくさーい」

りおゆき

「（匂いを嗅ぐ音）

くんくん…くんくん…はぁ…くんくん…はぁはぁ、くんくん…」

りお

「先生、この透明な汁、ペロペロしちゃうね。

…れええええろ…わぁ、変な味い、にがーい」

ゆき

「あん、私も、ペロペロさせてください

…れええええええろ…

はぁ、汗臭くてしょっぱくて、男らしい味ですう。」

（2人でおちんちんを這うように舐める

上から下へゆっくり・・・

下から上へゆっくり・・・

啜えないで、

先生の顔を見ながら挑発的に舐める）

りおゆき

「…れええええろ…ろおおお……

れええええええええろ。。

…れえええええええろ……。ろお…

…ええええええええろお……

れえろれえろ…れえろれえろ…

れえろれえろ…れえろれえろ…

レロレロレロレロ…レロレロレロレロ」

りお

「先生…りお、我慢できなくなっちゃったぁ。

先生のおちんぽ、食べちゃって良ーい？

先生の反応、あんあんって言ってウケるんだもん♫

もっといじめたくなっちゃった」



ゆき（右 距離：近く）

「あら、私も先生の喰えたいのに…

しょうがないわねえ、今日のところはりおに譲ってあげる♡

（囁き）先生、りおがたーくさん頑張ってじゅぼじゅぼしますからね♡

りおの初めてのフェラチオ、応援してあげてください。」

りお

激しくない可愛らしいフェラ。

後半、ママの激しいフェラとギャップをつけるために控えめに。

フェラが慣れてないけど一生懸命頑張る感じで。

「ほんじゃ、いただきまーす♪

ああああむんん……んん…じゅるじゅる…ちゅぱちゅぱ…

じゅるるるる……ちゅぱ…ちゅぱ…

んん…先生のおひんぽ…臭くて…苦い…

んはあ…じゅる……ちゅちゅ…ちゅる…

じゅるるる…るる…ちゅ…ちゅぱ…（フェラ4分）」

ゆき

「先生♡先生のおちんぽ、りおがじゅぼじゅぼ喰えてますよ…

」Kの口の中はあったかいですかー？

ふふ、教え子にさせてる気分ってどうですかぁ？

不慣れなところもあるかと思いますが、応援してあげましょうね。

りおちゃん、頑張れ♪頑張れ♪

ほらほらぁ、目を閉じないで。

ちゃーんと見てあげてください

女子高生のこーんな下品な顔、初めてみましたか？

男の人のおちんぽを喰えると顔がきゅってすぼんじゃうんですよ。

ちょっと不細工ですよ～♡

でも普段の生意気なときとのギャップに萌えませんか？

りおちゃん、すごい美味しそうにじゅぼじゅぼしてますね♡

いっつも生意気ばかり言う口が

今は先生のおちんちんを美味しそうにじゅるじゅるしてますよ。

先生、これがフェラチオですよ。

今日はこれ覚えて帰ってくださいね？

わかりましたか？

大事なところなので何度も復習しましょうね。

フェラチオ…

フェラチオ…

フェラチオ…

フェラチオ…

ふえ、ら、ち、お♡

ふえ、ら、ち、お♡

快感で頭いっぱいってお顔ですね。

ふふっ、先生たら可愛い。

もうすぐ出そうですか？

良いんですよ、遠慮なく出しちゃってください♡

りおちゃんの可愛いお口にたくさん精子出して、

もちろんゆきのお口にもくださいね。

ゆきのお口だって先生の精子ほしいですから。

先生♡

精子出して♡せーし、出して。

出して出して、出して♡

お口に精子だして♡

りおとゆきのお口に交互に出して♡出して出して出して出して♡

あっあっあっ、出る、出る、出た、出ましたあ。

ゆきにも、ゆきにも精子かけてください。

りおと並んでお口開けてますからあ…っ

ああああー…（口開ける）」

りお

「(フェラ。精子を口に出される)

……～！！♡♡ …はあ、先生のせーし…いっぱいあい…♡」

ゆき

「はあああ、先生の精子、

たくさんお口にかけてくれてありがとうございますう…♡」

ゆきりお  
「ごっくん」

ゆき  
「はぁ…む…美味しい♡  
ふふ、おちんちんから精子、まだ少し出てますね。  
一滴残らず舐めとってあげます♡」

りお  
「りおも、まだ先生の精子欲しいよぉ…（お掃除フェラ）」

りおゆき お掃除フェラ 1 分

ゆき  
「もう、先生、まだビンビンじゃないですか。  
頑張り屋さんのおちんちんには、  
私たちが気持ちいいセックス…教えてあげますね。」

ゆきりお  
「大丈夫、優しくするから♡先生」

バイノーラルの定位  
普通…30 cm  
近く 10 cm  
囁き 0 cm